

44

プラスチック製品づくりの「信頼できる工場」は意外と近くにある！

有限会社 広沢プラスチック工業

TEL.03-3803-6293 FAX.03-3803-2197

URL <https://www.hirosawa-plastic.jp>

広沢 嘉彦
代表取締役

代表者：代表取締役 広沢 嘉彦

所在地：〒116-0002 荒川区荒川4-16-12

資本金：300万円

従業員：4人

創業年：昭和44年

業種：プラスチック製品製造業

事業内容：熱可塑性樹脂の射出成形、熱硬化性樹脂の直圧成形、金型設計製作

柔軟な生産システムで顧客ニーズに応える

昭和44年に、前・代表取締役の広沢喜八郎氏が創業して以来、プラスチック製品づくりの一本道である。昭和時代の高度成長期を通じて、専門メーカーとしての独創技術を蓄積し、熱可塑性樹脂の製品が大半を占める業界の中で、熱硬化性樹脂の製品づくりも手掛けて事業領域を広げ、多様なユーザーニーズに幅広く対応する体制を築いた。



創業当初から荒川区内に工場を構え、環境に配慮した都市型工場として製造設備を効率的に配置し、受注から出荷までの柔軟な生産システムを編み出して、工業用プラスチック製品の厳しい品質管理をクリアする技術力も持つ。

電機、機械、医療分野を中心にしたユーザーからは「技術の幅が広く、製品づくりが器用」との評判だ。

小ロット生産、手の平サイズの製品づくりが得意

複数の射出成形機を配置して、熱可塑性樹脂を射出成形・加工している。設置している成形機は、容量が80㏄と50㏄の設備。射出可能体積は最大130㏄で、手の平に乗るくらいの小型の部品製作に適している。

取り扱うロットは、おおむね数百～数千程度の多品種・小ロットの注文に柔軟に対応。樹脂と金属類を一体成形する「インサート成形」を得意としている。さまざまな形状・用途の部品を効率的に製作し、短納期で提供できる。さらに、多様な樹脂の成形品だけでなく、金型の製作も請け負う体制を整えている。

精密なうえ耐薬品性・耐熱性が求められるレントゲン装置やMRI（磁気共鳴画像診断装置）、AED（自動体外式除細動器）など医療機器の部品が多い。

自社ブランドの確立を目指す

現・代表取締役の嘉彦氏は、MACCの「あすめし会」に参加するなどして、社外にネットワークを広げ、新事業・新製品開発にも取り組んでいる。

群雄割拠のプラスチック産業の中で、「素材、デザイン面の研究を進め、自社にしかできない製品づくりを追及する」方針。

競合他社が廃業していく中、3Dプリンタを使い金型代の生産コストを抑え「小ロット」にも応え得る体制を整えつつある。

また、自動化装置の開発にも意欲的。まずは自社内の工程を自動化、そのノウハウを利用し他社へのコンサル等にも使えるような仕組みを考案中。

2024年には、事業拡大のため開発拠点を埼玉に移して、「暮らしに直結する最終製品を狙い目に、自社ブランドを確立したい」と“脱下請け”への成長路線をイメージしている。

熱可塑性樹脂と熱硬化性樹脂に対応するオールマイティの製品づくり！

「熱可塑性樹脂」と「熱硬化性樹脂」の両方にオールマイティに対応する。多様なエンジニアリングプラスチックや汎用プラを扱う中で、ポリサルフォン（PSF）・PPS・PEEKなどの耐熱温度や物性の高いスーパーエンブラ、ABC樹脂・ポリカーボネート（PC）などエンブラを使った精密なプラスチック製品で豊富な実績を持つ。また、真ちゅう・アルミ・ステンレスなどを使用したインサート成形にも定評がある。顧客ニーズを満たす製品づくりがモットーで、多品種・少ロットの注文にも迅速に対応し、形状や樹脂の選定段階から相談できるのも強み。製品サイズは100g程度までの小型部品の製造を得意とし、社内で成形できない案件は取引ネットワークを駆使して対応するワンストップ体制も整えている。

